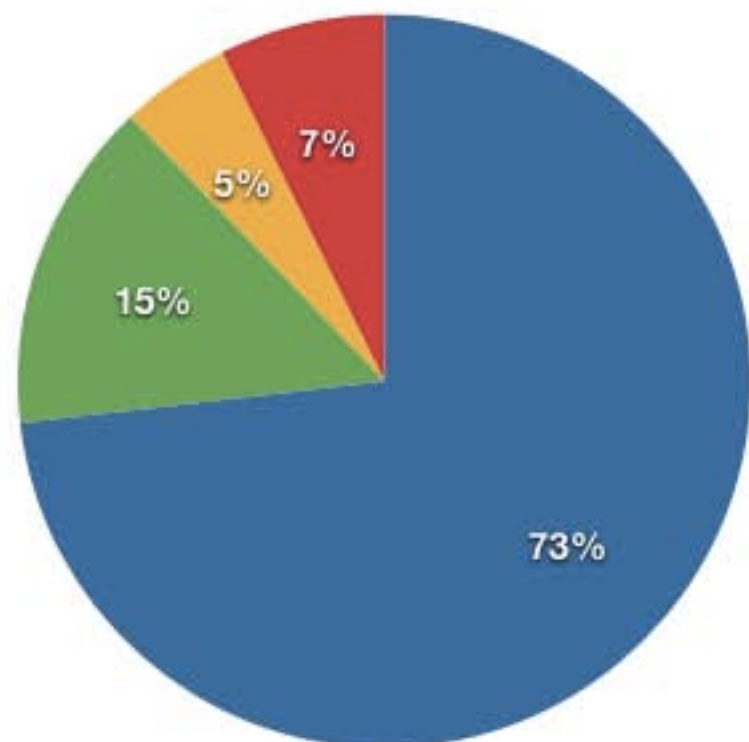
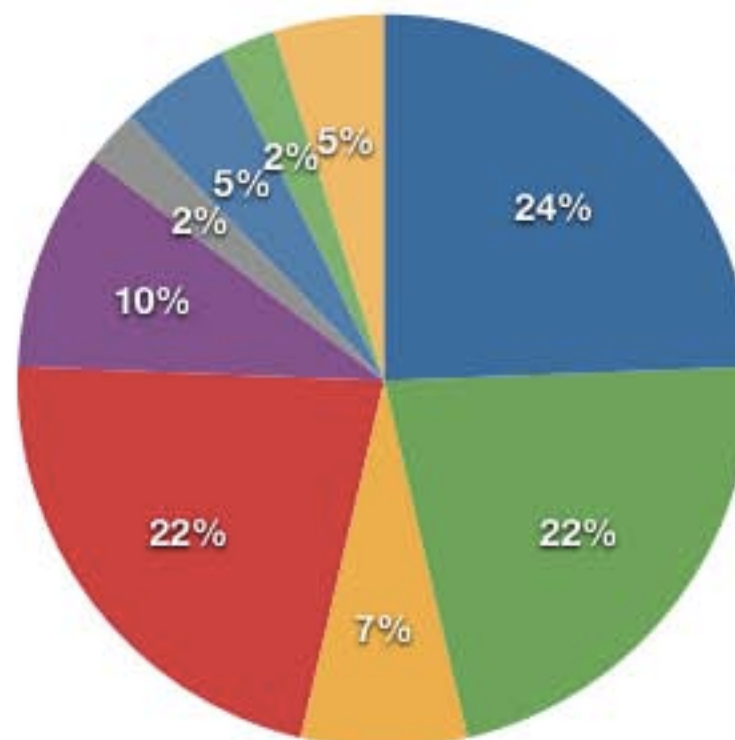


Q.0-1, 所属



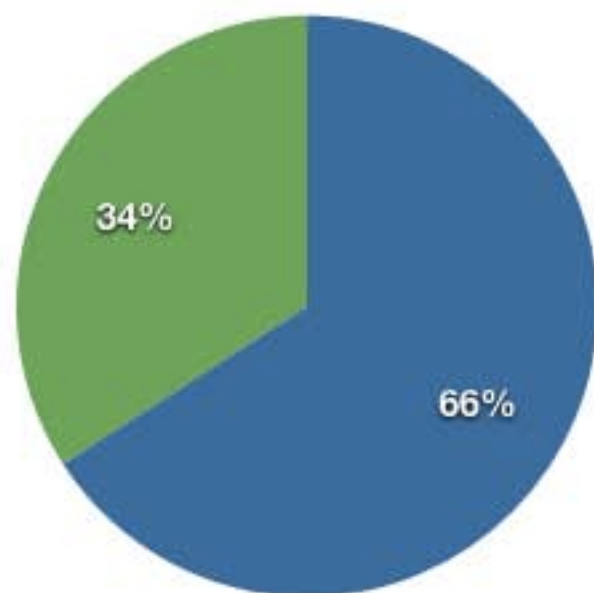
● 生命科学研究科 ● ウイルス研 ● 薬学研究科
● 医学研究科

Q.0-1, 学年



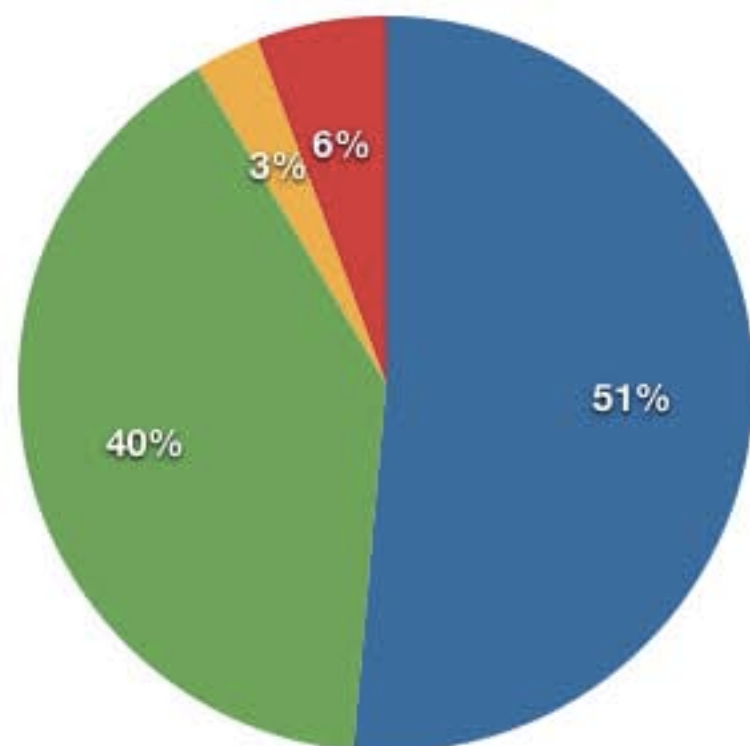
● M1 ● M2 ● D1 ● D2 ● D3 ● D4- ● PD
● 教員 ● その他

Q.0-2, 性別



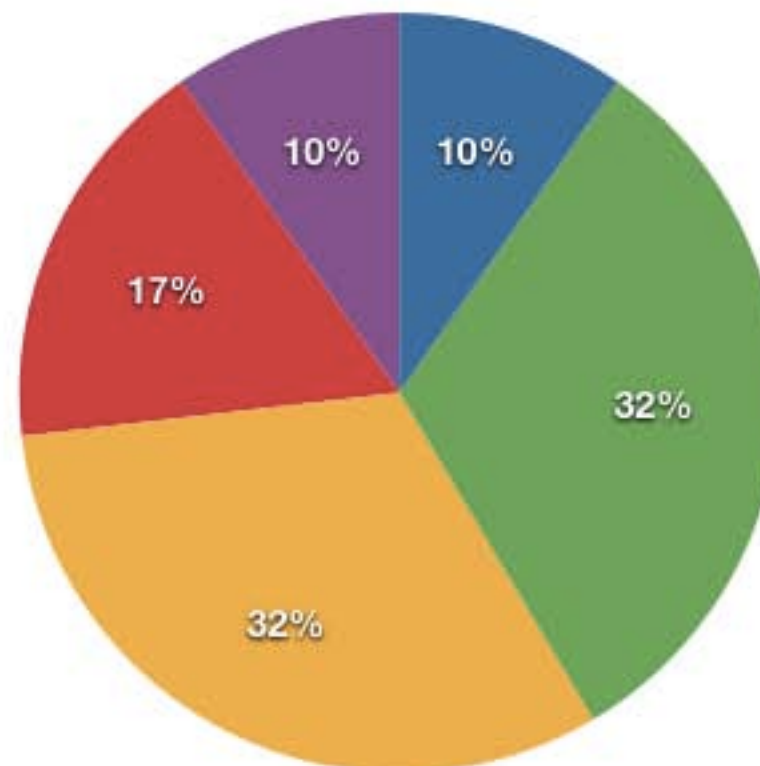
● 男性 ● 女性

Q.1-1, 進学理由



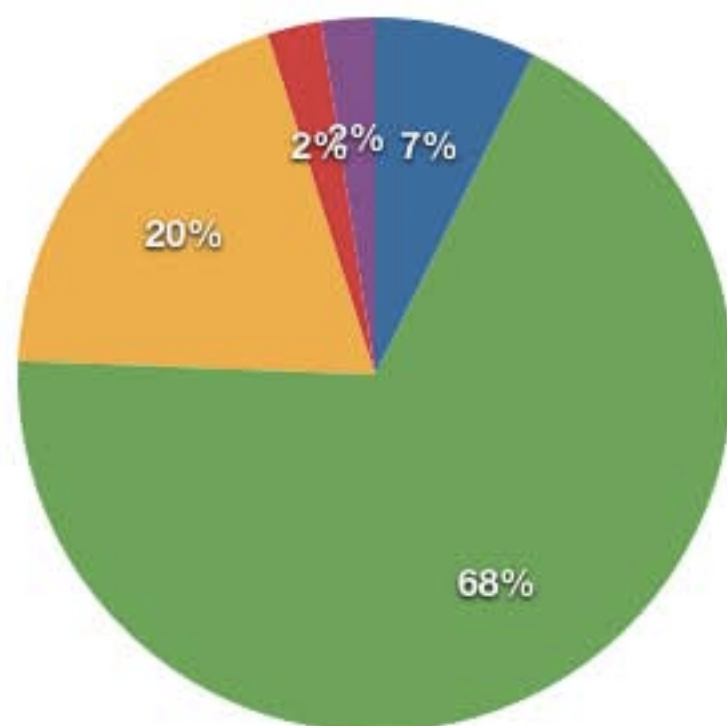
● 研究をしたい ● 研究者になりたい ● 就職したくない
● その他

Q.1-2, 研究時間



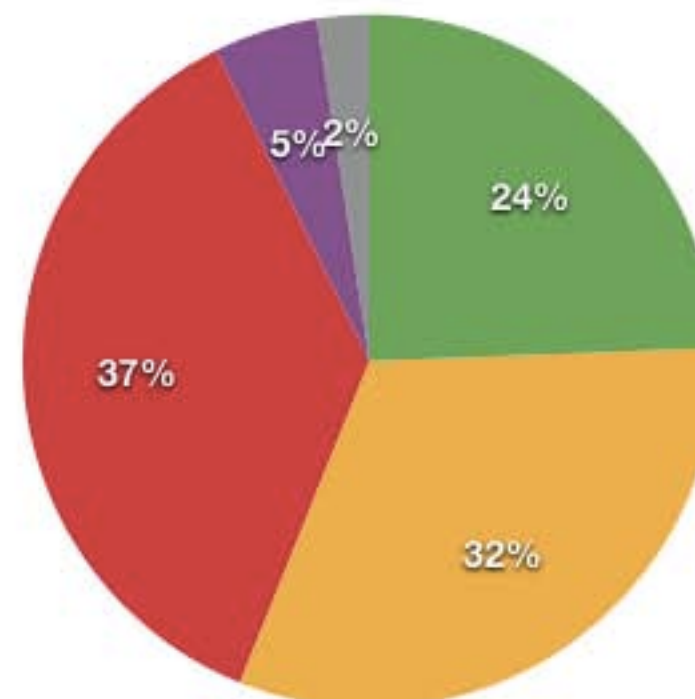
● 50時間まで ● 60時間まで ● 70時間まで
● 80時間まで ● 80時間以上

Q.1-3, 研究室に来る時間



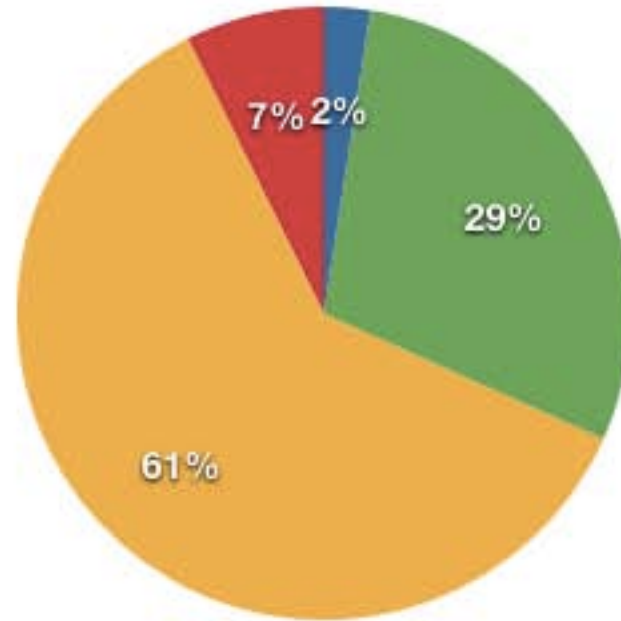
● 8時以前 ● 8時-10時 ● 10時-12時 ● 12時-15時
● 15時以降

Q.1-4, 帰宅時間



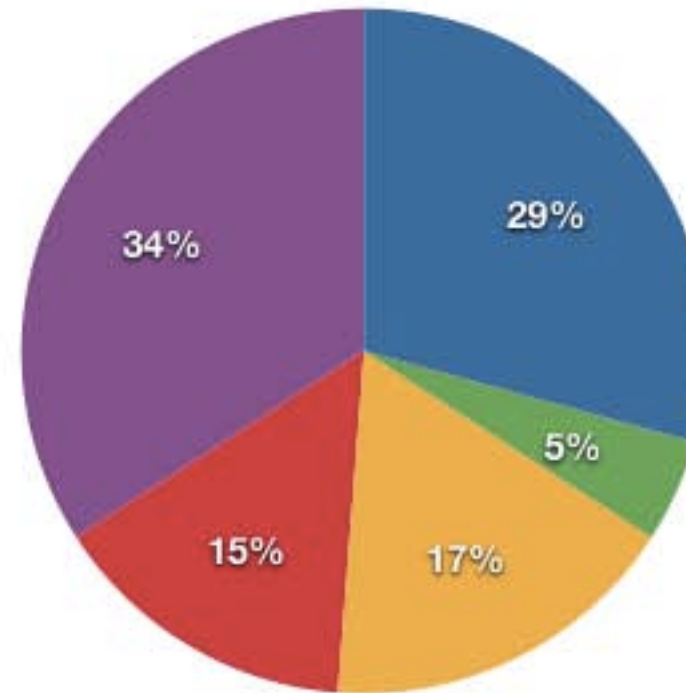
● 18時以前 ● 18時-20時 ● 20時-22時 ● 22時-24時
● 24時-26時 ● 26時以降

Q.1-5, 女性の割合



● 10%未満 ● 10-30% ● 30-50% ● 50-80%
● 80%以上

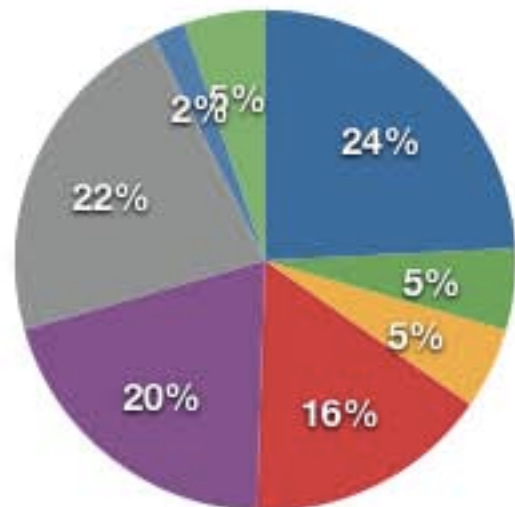
Q.1-6, 気分転換の方法



● 友達と喋る ● ネットうろうろ ● 散歩 ● 音楽を聴く
● その他

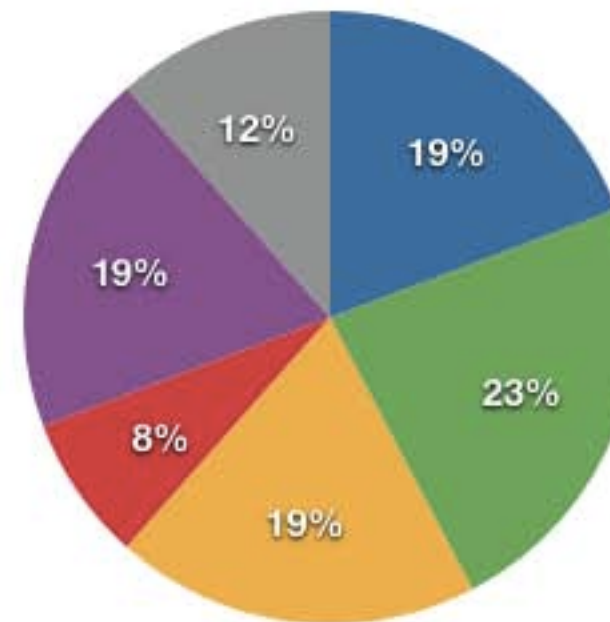
その他方法に
呑む、寝る、他の研究をする
河原町ショッピング、スポー
ツ、本を読む

Q.1-7, 休日の過ごし方



● 趣味に使う
● 家族（両親等）と過ごす
● 家族（配偶者や子供）と過ごす
● 友人と過ごす
● 掃除等
● 買い物
● 特に何もしない
● 休日をほとんどとらない

Q.1-7, 趣味

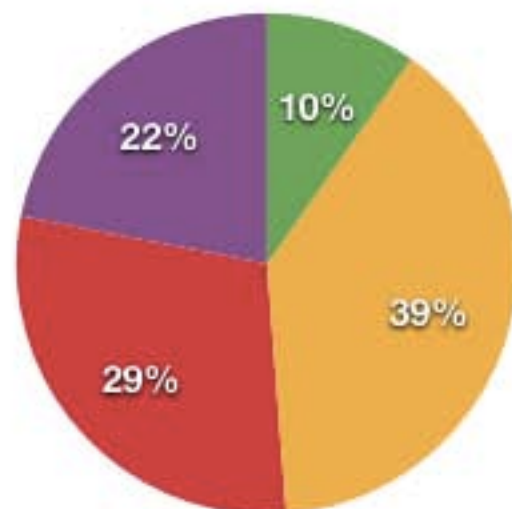


● スポーツ ● 読書 ● 音楽(演奏する・歌う)
● 音楽を聞く ● スポーツ ● 料理

趣味

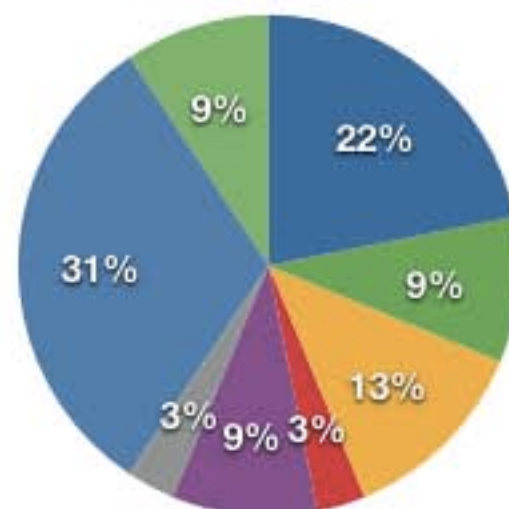
嵐、陶芸、ドライブ、チェ
ロ、エレキギター、歌う、

Q.1-8, 交流



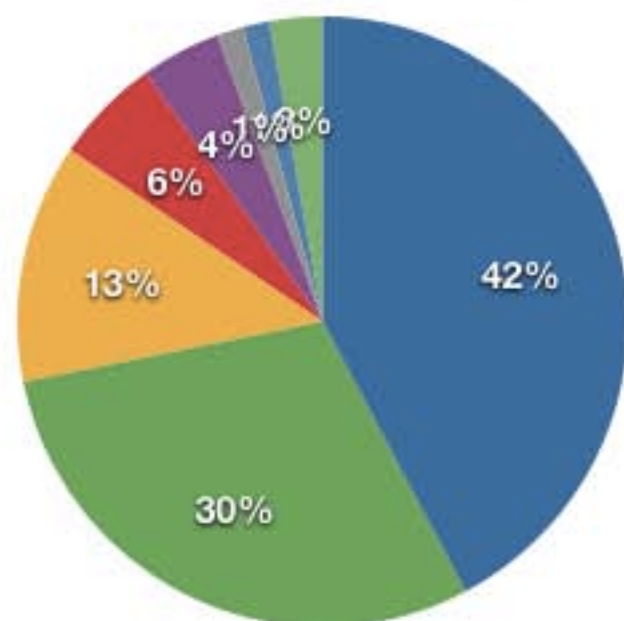
- とても盛ん
- 盛ん
- そこそこ
- 余り
- ほとんど交流がない

Q.1-8, 交流の方法



- 共同研究や実験・研究面での交流
- 研究科・研究所レベルでの研究発表会
- 学会
- 研究室主催の公開セミナー
- 研究室対抗スポーツ大会
- 輪読会・勉強会等のゼミ
- 友人繋がりでの食事・飲み会
- その他

2-1. 将来どのような職につきたいですか？ (3つまで回答可)



- 大学、国等の教育機関(研究者)
- 企業等の施設研究機関(研究者)
- 企業(研究分野以外)
- 公務員(理系職)
- 公務員(一般職)
- ベンチャー企業の創設
- 弁理士
- その他

研究者を選んだ理由

研究が楽しい
研究が好き
自由裁量
知らないことを知りたい
世の中に貢献したい
その他
研究に向いている

など

研究者を選ばなかった理由

研究者になるということはすばらしいことだと思うが、その道は精神的にも体力的にもかなりきついと思う。研究者よりも自分に向いている職業はあると思うし、自分の意思として研究者以上にやりたい仕事はたくさんある。PIになれなかった場合でも何とかこの業界に関わっていたいから

理系出身の公務員が日本には圧倒的に不足しているから

研究者でいることがもし辛くなる可能性もある。この仕事は(時に辛い時はあっても)基本的には楽しめなければ続けるメリットはないと思うので、その時は公務員になって趣味を優先したい。社会の中で少数派だし、世の中楽しいこともいっぱいあると思うから研究者になれないのなら

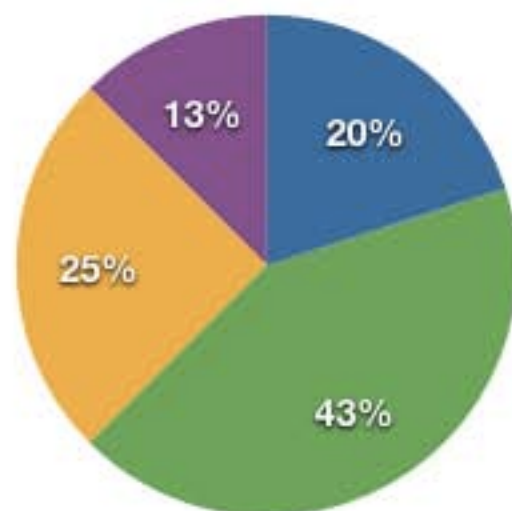
仕事(研究)で得られるものが少ないから(安心感、収入など)
趣味にさく時間がなくなりそうなので(笑)

いろんな意味で狭い。

Q. 2-4 子供の頃の夢

研究者	8
医者	3
教師	2
スポーツ選手	2
警察官	2
宇宙飛行士	3
会社員	2
その他	11
花屋、ケーキ屋、棋士、建築家、政治家、樹木医、作家、発明家、世界征服	

Q.2-5, 留学について

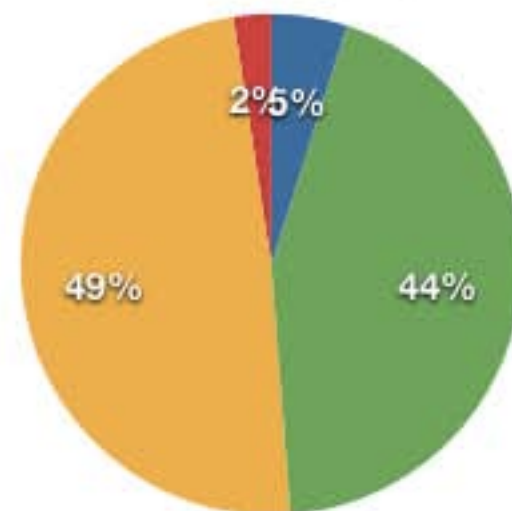


- 絶対にしてみたい
- 特にしてみたいと思わない
- 既に留学経験がある
- してみたい
- 絶対にしたくない

理由

海外での生活や考え方、接し方を一度経験してみたい。
 日本でもいい論文は書ける
 研究の主戦場である欧米での研究スタイルを学んでみたいから
 自分の視野を広げたいから。
 視野が広がるし、人間としても成長できることは間違いない。国際化社会の中で人脈をつくることは重要だと思う。
 今のところ、必要に迫られていないため。
 研究に必要な知識、技術を身につける上では日本も海外もそれほど変わらないのでわざわざ留学する必要は無いだろうから
 多様な背景を持つ人たちとコミュニケーションするため
 技官の方のサポートが充実していることもあってか、すでに留学した知り合いは、日本にいたときよりも楽し
 みつつ、なおかつしっかり結果を出しているの。
 日本は狭い。
 海外の査読者たちと知り合い関係にならないと論文がアクセプトされる可能性が低いから
 もっと地球で遊びたい。
 横断型の研究がうまくいく仕組みを肌で学びたいから。
 英語が全くできないから
 面白そう
 自身の考え方や多様性の理解について、深みや広がり期待できるから
 より自分にあった環境があればそちらに移りたいので。海外が自分の肌に合う環境か否か確認したい
 海外のラボを見てみたい
 これからの社会においてはグローバルに活躍することが必要不可欠であると感じるため。
 科学的な面で、日本が海外より劣っているところを直接感じてみたいと思ったから。

Q.2-8, 海外を拠点に研究(仕事)をしたい？

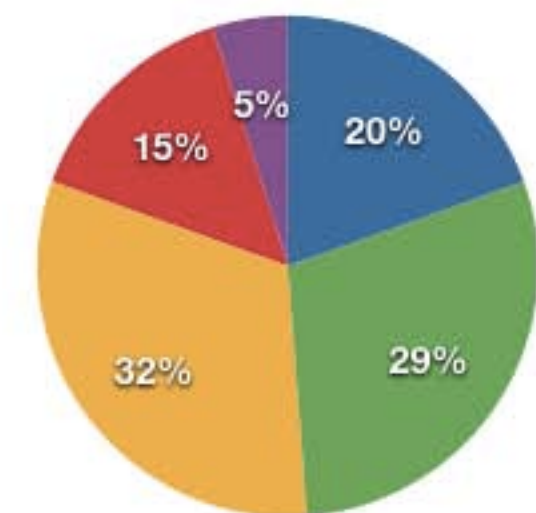


- 絶対にしたい
- 特にしたいと思わない
- 既に海外に拠点を移している
- したい
- 絶対にしたくない

Q.2-7 留学により得たもの

日本人同士の人脈
 英語へのためらいがなくなった
 異文化理解
 海外の研究の進め方をみるこ
 ができた
 語学
 論文

Q.2-9, 研究者が海外に行くことについて



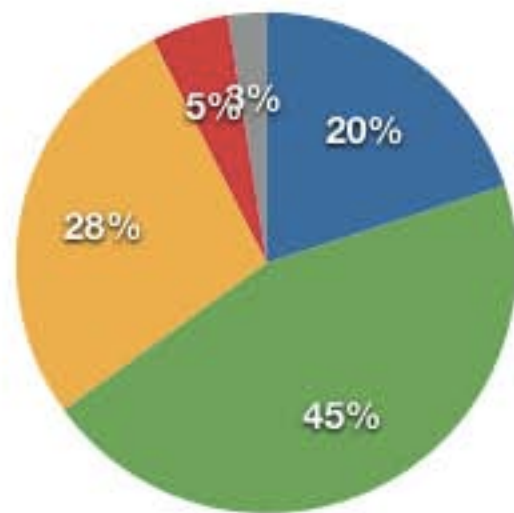
- とても良い
- どちらともいえない
- 非常に遺憾である
- まあ良い
- あまり良くない
- 分からない

Q.2-9 理由

本人の自由

いい研究者が条件のいい所に移籍していかないと、研究者の待遇が劣悪化していくだけだから
日本の科学技術の向上という点では由々しき問題だが、ロングスパンで見たとき自然科学の発展という点では良いと考えるから
最終的に日本に戻ってきてくれるのがベスト。得たものは母国に還元することで、さらに次の世代が育つはず。
より良い待遇を求めるのは当たり前だと思う
研究のレベルが下がることが懸念されるから
研究者の立場からいえば、自分に最適な環境を選んだ結果が海外なのであればそれでよいと思う。
能動的な選択であればよいことだと思うが、国内に居場所がないから仕方なく、という理由では良くないことだと思う
国内がそれほど魅力的な研究環境では無いということだから
個人の能力が最も生かされる環境で研究することが、人生の幸福につながると考えるから
(もし海外から優秀な研究者が入ってこないと仮定すると、)魅力ある研究室が減っていくことになる。これは大学院生や若手研究者の海外流出につながり、結果としてさらに魅力のある研究者が減るという悪循環が起こるだろうから。
いろいろな国がみれて楽しいと思う。
たぶん、えらく成って帰ってくるから
この先、日本国家がどうなるか分からない。
それなりに日本に愛着があるため、人材流出によって他国との競争力が落ちるのは望ましくないが、ゆるやかに衰退していくこの沈没船に残るのも、それはそれで乙かもしれないので。
研究者にも環境を選ぶ権利はあります。
人類の科学が発展するならば、どこで研究が行われようとかまわないと思うから
むしろ日本にこだわる理由ってあるの??
資源に乏しい日本を支えているのは科学技術であり、それを担う人材の流出は、科学技術開発の将来に直接的な影響を及ぼす事になるから
個人的には研究が進むのであれば出て行ってもかまわないと思う。解明してほしい事柄は色々あるので、優秀な人には頑張ってもらいたい。ただ、日本国内の教育など、"国"のレベルで考えると、日本で仕事して欲しいなと思ってしまう。
研究の場を選ぶ権利が研究者にはあるべきだと思うから。ただし、優秀な研究者が国外に出ていくことは国にとってはプラスとは言えないと思う。
研究しやすい環境を見つけるのは個人の自由だと思う。人材・技術の流出という点では問題だと思うが、個人ではなく国の問題だと思う。
国外でも国内でも地球規模で考えると同じコミュニティであり、広い視野を持つべきであるため。
何を以って優秀とするかは不問として、日本に優秀な研究者が少なくなることが日本における学術分野の発展にとって大きな損害だと思う。しかし、出ていく研究者たちにはそれぞれ理由があり、その理由が日本の現状によるものだとすると、研究者たちに日本に留まれというのは理不尽なことだと思うから。
その人にとってはいいと思うが、それが日本国内で二次的な利益を与える可能性が少ないと思ったから。
研究とまた、研究者の生活にとって一番良い環境を求めるために、国は関係がないと考えている
教育が還元されない
優秀な科学者が帰ってきたら、その知識は国に還元されるから。

Q.2-10, 外国人に科学が担われることについて

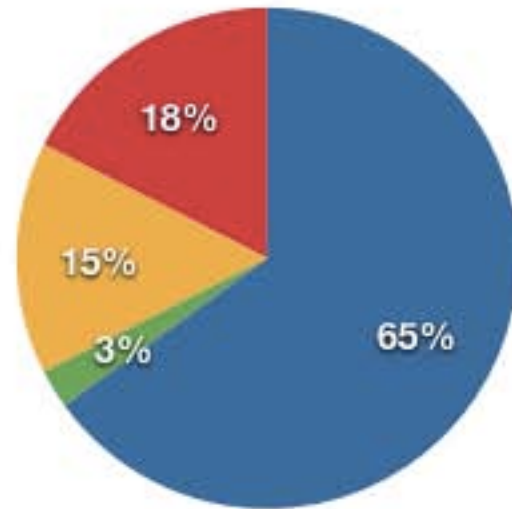


- とても良い
- どちらともいえない
- 非常に遺憾である
- まあ良い
- あまり良くない
- 分からない

Q.2-10 理由

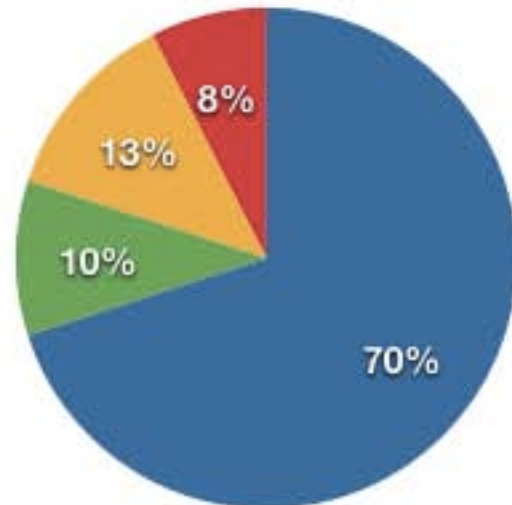
協力するのはとても大事なことで、自国の人材に固執する必要はないと思うから。
そうならいいと思う。競争的であることは、結果的に日本の科学研究を強化すると思うから
「自国の研究」という言葉に政治的で閉鎖的な印象を受けるのでこの質問自体に違和感を感じる。
それで日本の科学が発展するのであれば問題ないと思う。(ポストが減ってしまうという心配はあるけれど、)
科学の進展から見れば全く関係ないけれど、科学技術創造立国とか言っているのであれば、おおいに問題だと思う。
海外からの人材を引き付けるだけの魅力があるということだと思うから。
研究の内容によると思う。
研究室という環境は閉塞的になりがちなので様々な背景を持った人でラボが構成されている方がそれを解消できると思う
海外から研究者が研究環境の良さを求めて日本に来てくれるのは構わないが、日本に研究成果を還元してもらえる工夫が必要だと思う。
狙われるくらい目立つ研究をしたい。マネされたらもっと新しいことに挑みたい。
世界各国から集まった研究者によって、日本のサイエンスがより発展するなら素晴らしいことだと思う。
いろいろな国がみれて楽しいと思う。
国内を過保護してもいいことないから
この先、日本国家がどうなるか分からない。
科学が発展するならば誰が行おうと関係ない
国家機密以外のところは競争させたほうが良いでしょ
知的財産、資金、倫理観などの問題が起こらないような仕組みが上手く回っている状況下であればいいと思う
「自国の研究」という言葉の意味がよく分からない。自分には、「日本の研究者である」や「日本のための研究をしている」といった自覚はない。
良い研究は良い環境から生まれる。良い環境は優秀な人間がつくってくれる。なのでどんどん日本に優秀な研究者を入れればよいと思う。あと、身近にバックグラウンドの異なる人がいるのは非常に楽しいので。
研究が進むのならその研究者がどこの国の出身でもよいと思うから
海外の人材であろうがなかろうが、優秀な研究者は優秀に違いないため。
それぞれの国の発展が、その国に国籍を持つ人たちのみによってなされなくてはならないとは思わないから。
日本の研究の発展のためにもよいとは思いますが、将来的に海外の研究者のいいなりになる可能性もあり、それは好ましくないと思ったから。
多くの研究者と交流する機会が増えるのは良いことだと思う。

Q.2-11, 結婚したい？



● したい ● したくない
● どちらともいえない ● 既婚 or 婚約中

Q.2-13, 子供は欲しい？



● 欲しい ● 欲しくない
● どちらともいえない ● 既に子供がいる

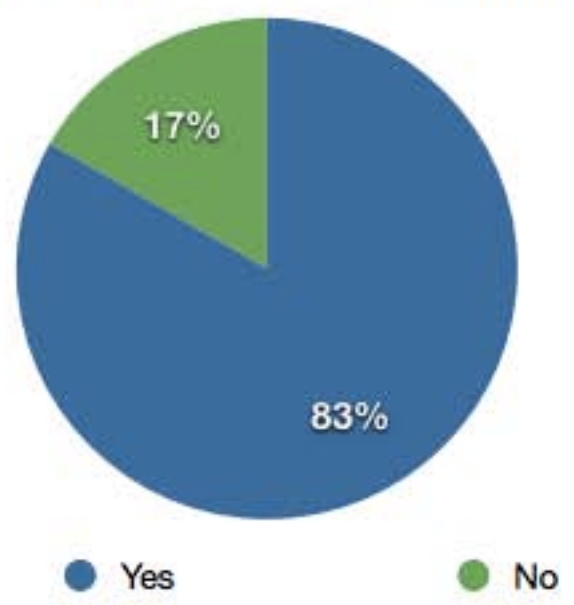
Q.2-12 結婚と研究(仕事)の両立に必要なものは？

経済力と理解と協力
ゆとり
バランス感覚
家事の負担軽減
コミュニケーション
健康
相手がこの業界に理解があること
価値観の共有・余裕
9時18時で帰れる研究に対する集中力と計画力
バランス、資金、ある程度の目標
愛
時間、金、周囲の理解等によって得られる心のゆとり
一人の人間として、当たり前の人を気遣える心があれば問題ないのではないのでしょうか。
はっきり言って完全に両立できるとは思わない
育児支援
寛容と自制
規則正しい生活
職の安定性。子供を作るか否か。時間。
研究や仕事について、理解されないことであっても相手に伝えようとする努力をすること。
目標をもつこと。なりゆきに任せないこと。
上司の理解
明確に時間を割り当てること。

Q.2-14 子育てと研究(仕事)の両立に必要なものは？

経済力と協力、ゆとり、体力 (+祖父母力)
周囲の理解
努力、自分の頑張りや周囲の協力
経済力、時間的余裕、思いやり
社会的な援助、バックアップ、託児施設
時間的余裕とそれを可能にする本人のスキル、周囲の協力
コミュニケーション
健康と配偶者の理解
わがままを言う勇氣
9時18時で帰れる研究に対する集中力と計画力
資金、子育て支援環境、愛、一人の人間として、当たり前の人を気遣える心があれば問題ないのではないのでしょうか。
はっきり言って完全に両立できるとは思わない
きっちりとした育児支援、育児・保育支援、特に病気時の子供に対する支援
効率的な時間の使い方と上手なストレス発散
体力、研究室のボスとの相互理解
女性にとって現時点で両立は厳しい。
自分だけのためではなく、誰かのために働くというモチベーションを保つこと。
家庭から逃げないこと。
要領の良さ。配偶者の理解 上司の理解
お互いの立場を尊重すること。

Q.2-15, 女性研究者を増やす取り組みは必要？



Q.2-15 理由

女性も社会の一員であり、労働力でもあるので、能力やモチベーションをもった人が、スキルを発揮できる場を増やすのはとても良いことだと思います。

研究熱心な女性が子育てのために、せっかく積み上げてきたマンパワーを放棄してしまうのは大きな痛手だから。こういった口ス無くしていかないと、日本の研究水準を維持するのが難しくなると予想される。

研究者としての能力の評価や機会の平等化は必要だと思うから。

現在は女性研究者として成功したモデルが少なすぎるため、院に進学する女性が多くても最終的に残る人は少ないと思う。逆差別だという批判があるかもしれないが、女性研究者の占める割合がある程度保障されるまでは必要な取り組みだと思う。

研究者として仕事することに性別は関係ないから。

女性研究者が増えることで研究自体が活性化すると思うから

研究したいけれど出来ない環境があるならそれは改善すべきだと思う。

現状、女性が研究者として活躍するためのキャリアパスが十分整備されているとは言い難いため。

特に育児は効率化できない部分があると思うので周囲のサポートが大事だと思う。

女性からの視点は研究活動やそれを取りまく環境を改善する上でとても重要だと思う

多様な背景をもつ人材を確保することはよいと思う。

自分の中でも結論が出ていない問題だが、どちらかというと積極的な取り組みを見ていてあまり良い印象はない。女性を優遇するために同じくらい優秀な男性研究者がポストにつけずに苦しんでいることも多いと思う。女性研究者もそのポストに見合う実力がないと、本人にとっても不幸だろう。女性だからポストにつけないのは問題だが、女性だからポストにつける（ように見えてしまう）のも問題だろう。

いざっていうときには女性の方が強いと思う。埋もれていてはもったいない。

NoとしたがYesでもNoでもない。どちらでも良い。

部分的に賛成。優秀な女性が進学、昇進していく機会はぜひ育てるべき。しかし、長期的展望のない、誘惑的な方法で若い人に進学、昇進を勧めることはあとで痛い目にあうと思う。（本人も、周りも）

多くの場合、結婚・出産が女性にとって研究継続のハンデになることが避けられないので、制度でサポートすることで両立しやすくしてあげることが大切。

女性が様々な面で男性に比べ、苦勞をすることが多いことは周知の事実です。なので、いろいろな面でサポートをすることは良いことだと思います。ただ昨今それが行き過ぎている節があります（女性限定のポストの募集など）。一度見直しが必要な時期に来ているのかもしれませんが。

女性を増やす必要性が理解できないから。ただし、もし優秀な研究者が女性というだけでサイエンスに取り組みめない場合があるとしたら大いに問題である。

なんだかんだ要求されている家事・育児による女性研究者の研究時間の減少や負担といった要素が十分に考慮されているとはとても言えない。

私生活も研究生活も両立させたいと考えている一人なので、このような組織ぐるみでの取り組みは非常にあり難い。私生活のために研究者を諦める選択をしていたはずの女子学生や女性研究者の一部に対しては、研究の世界に踏みとどまる勇気と希望を与える取り組みであると思う

何のために増やすのかが良く分からない。周りを見ても、女性が少ないとは特に感じない。男女に限らず、優秀な研究者を増やす方が大事だと思う。

優秀な女性研究者が仕事できなくなるのは不幸なことなので。

機会を設けることはよいことだと思うから

女性には結婚や出産、子育て等、世間一般的に見て退職するかどうかを考えなければいけない節目が多いため。

取り組みを行わなければ、現状はいつまでたっても変わらないから

研究職に限らず、女性の社会進出を阻む要因は取り除くべきだと思う。ただし、積極的に増やす必要はない。

研究者自体が増えることがいいことだと思うから。そのためには女性の力も必要だと思います。

制度がなければ人の意識（特に男性）は変わらないから

女性研究者を一人前の研究者とみることが困難な精神的風土があると感じる。それが、女性研究者の環境を困難にしがちであると思う。それを打破するために、女性研究者を意図的に増やすことは良いと思う。

詳しく知らないので何とも言えません。しかし、女性が第一線で活躍できる環境は、労働力を増やすという点でよいと考えられます。

Q.2-15 あれば良いと思う取り組み

経済支援と子育て支援

京大で費用を負担し、8時ぐらいまで運営している託児施設をつくり、充実させる
女性の一番の悩みはやはり結婚/子育てと仕事の両立。大学にも子育てをもっと支援
する制度があればよいと思う。

保育施設や育児休暇制度の充実（すでにあると思うけど）

男性の育休取得を普及する取り組みとか

子育て後にもすぐに復職できるような制度をつくる

一日に短時間しか働かないけど、長期雇用が約束される身分

保育所を充実させたり、産休や育休を取れる雇用を増やす。

女性のメンバー比率に応じて報奨金

無制限の産休、研究活動の二人担当制度、性別を問わず研究活動を楽しんでいると
感じられる環境作り、保育所100%設置

大学内託児所

同程度に優秀であれば、女性研究者が優遇されるというのはもっとあってよい。家
事・育児の分担率にもよるが、そのくらいの優遇をしても問題ない考える。

出産・育児関係のサポートが一番重要だと思う。

深夜まで託児可能な保育施設

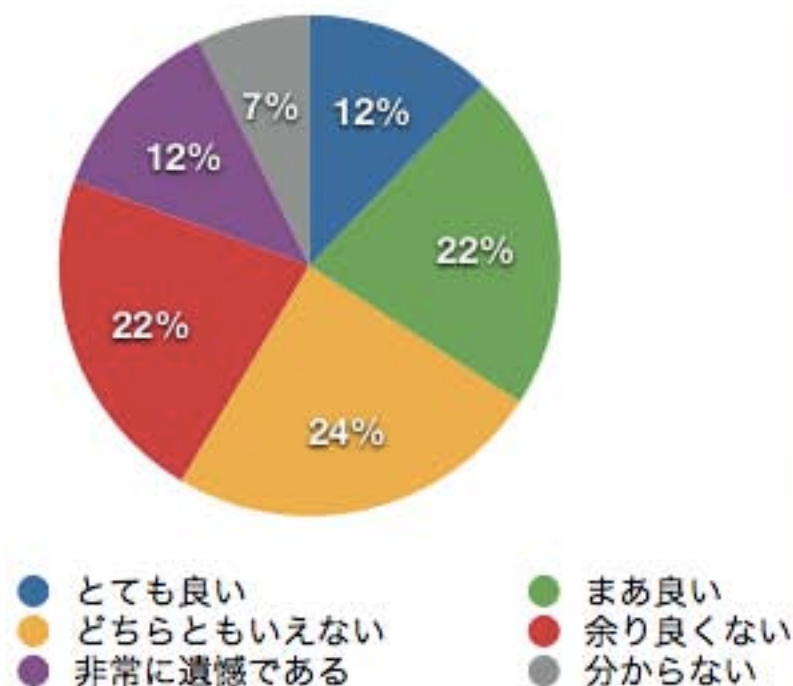
一般よりも遅くまで利用可能な託児所

特に思いつきません。無理に研究者にさせるのもそのひとのためにはならないと思
います。

科研費申請の際、スタッフの中にマイノリティ（女性、外国人など）の比率が高いと
ころを優遇する、とか。

まず啓発活動をするべきでは。

事業仕分けについてどう思う？



Q.3-1 理由

研究規模が狭くなってしまう

科学者が自分の研究に対する社会における価値を再認識し、説明責任を積極的に果たすべきだということに気付かされたから。

研究の何たるかをまったくわかっていない文系の政治家が科学関連予算の必要、不必要を論じるのがそもそもばかげている。まさに自分自身の研究費、生活費が見直し対象となったから。短時間での議論の結果、科学の未来が妨げられてしまったのは残念でしかたがない。

見直し自体は非常に評価すべきことだと思う。問題は十分な議論がされずに一方的に予算の削減などが行われたこと。

科学への関心があまり高くない中で、科学関連予算について興味をひいたこと自体は前進だと思うから。

結果として、研究にどの程度の予算が出ているのかがクリアになったから。

科学は何が必要かではなく何が不要かという議論の対象として適切でないと思うから。

研究費が税金でまかなわれていることを再認識するきっかけにはなったが、見直しの理由に的外れなものが多く余りよい印象はもてなかった

国家予算の見直しそれ自体はとても意義があることだけど、見直しのステップそのものがずさんすぎるから

研究者が自分の研究を一般社会へ伝えるきっかけになると考えるから

形式に問題はあったが、自分としてはこの問題を考えるいい機会にはなったと思う。

社会も科学界もいろいろ考えるきっかけになったと思う。

多くの研究者が対した大義もなくおもしろいというのが理由で研究を続けている事に気付く良い機会だったと思う。自分たちがやっている研究の意義を熱心に語る研究者が増えてほしい。

税金がどういう形で使われているかを確認するにはよかったが、その仕分け方法と、仕分け人がいいかげんすぎる。(仕分け失敗したら政治家、公務員の給料を大幅に減らすべき)

この先、日本国家がどうなるか分からない。

関心が集まったことは悪くないが、一過的なブームで終わってしまいそうなので。

財政難のそもそもの原因は、別に科学技術に掛けてきたお金がペイしないからではないでしょう。政府には諸悪の根源が何にあるのかももう少しはっきりして、政策を作っていくって欲しいと思います。

私自身スパコンの研究など、ドブに金を捨てるものだと考えているため。そんなものに税金を投じるなら日本の未来を子供に託すべく、教育費等に当たるほうが堅実である。

ちったあ痛い目見たほうが改革するにゃあ丁度良いんじゃない？そうでもせんと動かんでしょ？

長期的視野に立った上で、このような事業仕分けが行われ、より良い研究環境ができるのであればいいと思う。どのような視点に立って見直しが行われるかによる。

昨今の経済状況を鑑みるまでもなく、科学研究費といえども見直しは必要。見直すべきだと思える研究費の使い方は多く見てきた。しかし今回の事業仕分けは、決定までのプロセスが疑問。

事業仕分け自体は短絡的なもので賛成できない。ただ、科学者側も予算がこれだけ必要である根拠を、きちんと提示できていないように感じたので。

良い点も悪い点も考えられるから

科学の進歩が必ずしも良い未来を作るとは限らないが、かといってこれまでの偉大な科学の進歩を否定することもできない。よって事業仕分けの対象となった以上、それに合わせた科学の在り方や方向性を模索すべきであると考えたため。

内容を深く理解せず仕分けするようなことでない事柄も対象となっていたから

お金になるかならないか。研究の有用性がそういう視点からしか評価されていなかったのが残念。たしかに、自分の研究のための研究といったものや他者の役に立たないような研究は無くしていった方がよいが、時間はかかるかもしれないが程度の成果が得られるものに関しては、むしろ推奨すべきだと思う。予算の引き締めは、ただ単に成果を出すのに時間もお金もかかる研究領域を排除するだけだと思う。これでは資金援助者にとって有利な研究しかできなくなりそう。自分たちが研究をしているから予算削減が遺憾なのではなく、研究をすることがお金の無駄遣いであるとされていることや、研究者であること自体を否定されたようで遺憾でした。ある意味、研究とは何か？

研究者と社会との関わりを考え直させるいい機会ではあったが、研究者の扱いはこの程度のものかと思った

研究費が削られるのは歓迎できないが、研究費の社会での位置を考える良い機会だと思った。

無駄を省くことは必要だが、それぞれの事業に対する国の方針が明確でないように感じた

無駄な予算は削減すべき。研究は聖域ではありません。むしろ何が必要で、何がそうでないのか考えるよい機会だったと思います。

Q.3-2 印象に残ったもの

「スパコンの予算削減に必死になって反対している人が沢山いたが、もっと安くてもできるはずだ。」「世界一のスピードを瞬間だけ誇るスパコンを手に入れたところで、何に使うのかの方が大事なのに戦略的ビジョンが見えない。」「研究の予算で一番削れないのは人件費」などといった真っ当な意見が研究室であがっていたこと。

多くの研究者が立ち上がり署名活動などを行ったこと。

若手研究者育成費の削減。これでは科学は発展しない。

科研費、学振の予算削減。

科学者って政治的にはほとんど影響力がないことを露呈したと思う。

蓮舫議員が注目されたこと（誕生日が一緒なんで）

某議員による「一番になることにどんな意味があるのですか」という発言

若手研究者支援事業を見直す理由に、学振の枠が大きいと優秀な人材が企業などに就職して活躍する機会を奪うことになる、というのがあって驚愕した。

研究者による抗議、署名活動

仕分け対象がどうやって選ばれていたのか、不透明であること

学振を生活保護というなどの仕分け人の発言と、それを支持する国民がそれなりにいるという事実は、分かっていたものの悲しかった。また、文科省の担当者の答弁を聞いていると、彼ら自身が科学技術の重要性をきちんと主張できておらず、非常に残念だった。

しどろもどろな役人の説明と、付け焼刃的な大学の教員の反応

学振の存続がどうなるか不安だった。

「2番じゃだめなんですか」といっていた政治家、緊急で求められた署名活動（我々も抵抗勢力？）、結局のところ仕分ってどうなったのかという点（民主党のパフォーマンスか）

歴史の法廷に立つ覚悟があって言っているのか！

スパコン事業の削減・廃止

科学の発展のため、日本のために科学関連予算を減らすことを反対する連中がいたが、本当に科学の発展を考えて発言しているのか甚だ疑問だった。自分達の利権のためにやっているのではないのか？

2chのレンホースレの下ネタ化がウィットに富んでいて、とても秀逸だった。慶応GCOEと最近の神経SNSの人たちの声明以外の科学者の声明が余りに稚拙な内容が多くて笑えた。なんで人類の英知がとか将来の人材確保がとかを偉そうに言うことしか出来ないのかと。

与党議員の強引さのようなもの。

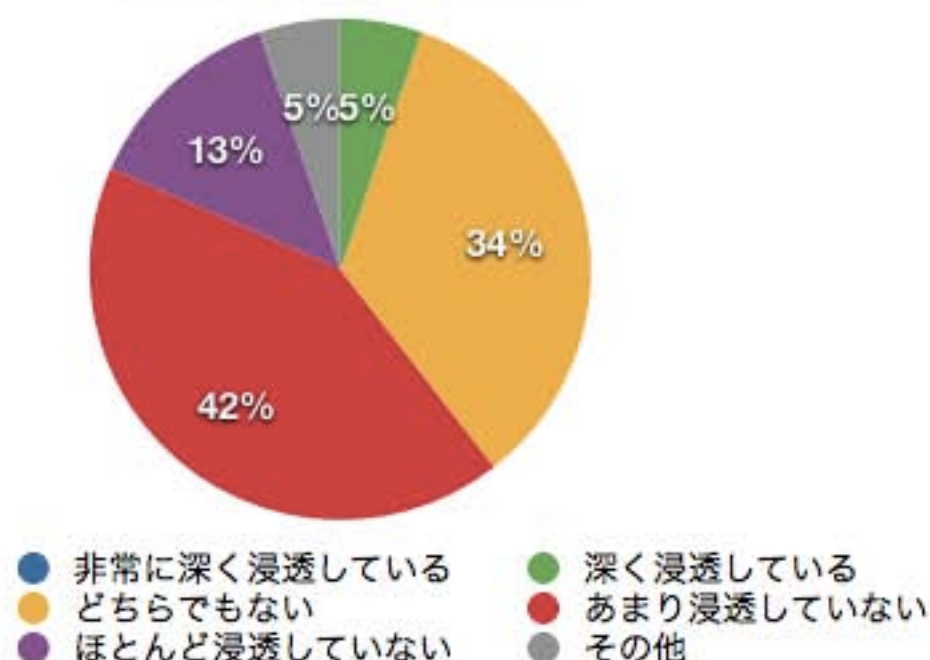
若手研究者支援関連予算の仕分けの理由が納得いかなかったこと

予算の削減はショックだったが、これまできちんと意義を一般人に説明してこなかった科学者にも問題があると思う。

スパコン、二位じゃだめなんですか発言。

喋りが上手な女や影の権力者の思いが公然と認められただけ。

Q.3-4, 科学は浸透している？



Q.3-4 理由

表面的な情報であればメディアを通じて、ある程度社会に浸透していると思う。しかし、メディアを通じて発信された科学の情報と、日常生活の事項とが結びつくほど浸透しているとは言えない。

科学を装ったモノが出回っている状況からは、科学が浸透しているとは思えない。科学的なものに対する信頼感は別として、科学を装った説明をすんなり受け入れすぎている。社会全体の科学リテラシーを高める必要がある。

科学技術は間違いなく浸透しているけれども、科学的な知識や思考はあまり浸透していないと感じるので。

大きくメディアで取り上げられていることは知っている人も多いが、基本的に研究者が何をしているかを知っている人は少ないと思うから

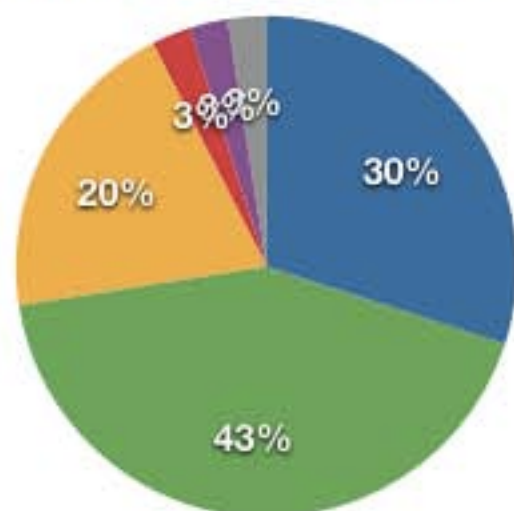
科学に関しては、それをなくして初めて気付くことが多いため。

実際には社会に浸透してはいても意識はさほどされていないように感じるから

科学が発展し、世の中に役にたった結果にみんな感動しているだけで、その科学が産み出されるまでの過程は重要視されていないと思ったから。

宗教による妨げはないが、一般の人が理解しようという気も無いから。

科学者は社会に貢献している？



- 大きく貢献している
- どちらともいえない
- ほとんど貢献していない
- ある程度貢献している
- 余り貢献していない
- その他

Q.3-6 理由

科学者の生み出した、考え出したことが、まわりまわって、またメディアを通じて社会に考える機会を与えたり、実際的な応用として貢献することはあると思うけど、科学者が実際に貢献しようと思っているかという、そうでもない人も多いように感じるから。

研究と社会の間に大きな乖離がある

科学者の貢献は特許や技術開発でない限り、日本という社会に限定されることがないから。

資源の乏しい日本が世界でも有数の先進国であるのは、「人材」のおかげ。その中に科学者も含まれる。

科学者の生み出した技術が無ければ、今の日本の生活水準はあり得ない。

輸出に依存する中で新しい技術・製品の開発には役立っていると思うから。

科学者自身でそういった意識を持っている人が多いと思うのでいい意味である程度は貢献していると思う。

大きく貢献していると思える分野もあれば貢献しているのだろうかと思える分野もあるので。

科学者が社会に貢献していたら、もう少し社会からの科学者に対する待遇が良いはずだから（今はそうではない）

資源はないし、政治もひどい。そんな日本を支えているのは科学を基盤とした製造業だと考えるから。

玉石混交だから

具体的に貢献している例はほとんどない。アカデミックの研究者、という意味ならば。

資源も何もない国でここまで発展してこれたから

社会への貢献の定義が人によって違う。

資源が乏しい島国の日本がここまで大きく成長できたのはソフトに拠る部分が大きいと思います。そして、ソフト開発は産学を含め科学者達の成果に拠ります。

日本を世界有数の工業国へと発展させたのは彼らの貢献が大きいと感じるから。ただし、それは科学者(Scientist)ではなく技術者(Engineer)かもしれない。

貢献はしてるんじゃない？ただ、科学者の考える貢献と、外からの評価は必ずしも一致しないし、外部評価の基準を科学者に合わせる必要も必ずしも無いと思うけど。

毎日の衣・食・住 全てにおいて、我々は科学技術の恩恵を受けて生活し生きていると思う。生活環境のクリーンレベル一つを例にとっても、科学技術の恩恵を受けている。

日本の社会が望むものを提供できている科学者は少ないと思う。

科学技術という側面で。

多かれ少なかれ「科学」が人々の生活等に影響を与えていると思うから

職業として科学者という領域が存在する以上、日本社会に貢献していないはずがないと考えたため。

技術面では貢献しているが、教育面ではまいちな気がする。知識を広めることはしているが、新たな発見ができるような教育に携わっている訳ではないと思う。

日本は衣食住充実しているし、それを産み出す産業も発達していると思ったから。

欧米に比べ、科学を価値のある思想ととらえない傾向があると思う。

日本経済の根幹は、卓越した科学技術を売ることに、そのものだと思うから。

Q.3-7 社会に貢献する方法は？

研究の敷居を下げ、分かりやすい内容にする。

新たな知見が、新しい技術や考え方をもたらす。

もっと研究成果を社会に発信していくべき。

ちょっとだけ社会のことを考えながら研究をする。

役に立つものを生み出す

個人的には研究を続けるというだけでも十分かなと思う。

研究によって明らかになったことを産業に利用できるように技術として確立する

人が考えないようなことを一つでも多く考え確かめて新しいことを発見する。その基本に誠実に仕事してれば一生に一つくらいは社会に貢献できる要素を持ったものが生まれると思う。

科学者が市民に積極的に研究成果をなるべく分かりやすくアピールする

よい成果を出すこと。中学高校の教員と接する機会を増やして、科学の普及に努めること。

そもそも貢献することを考えて研究する必要があるのだろうか？

人材の交流と子供の教育

応用研究

具体的に貢献できる事が説明できる研究をすれば良い。

すでに貢献していると思うが、貢献を社会に伝える力がまだ不足していると思う。

好奇心と向学心に従い、誠実に楽しく研究をすること。

方法というよりは、科学者各人のテーマ選びが大事になってくるのではないのでしょうか。

子供の知性を養う。

人々が共感できるような形で社会のヴィジョンを示す。

中長期的に社会生活に還元できる技術やモノにつながるような基礎研究で、成果を積み上げていくこと。

社会生活に直結する技術を開発する。専門的な知識を生かして、新たな技術や知識について無用な不安を取り除き、危険性があればそれを正確に認識させる。

ひたすら仕事することが一番社会への貢献になると思う。そういう意味で、科学教育や広報、政府への働きかけ等、ひたすら仕事できる状況をつくるために行動することも重要だと思う。

研究をする。ただし、それだけですむ世の中ではなくってきていると思うので、社会にどう発信していくかが科学者の課題でもあると思う。

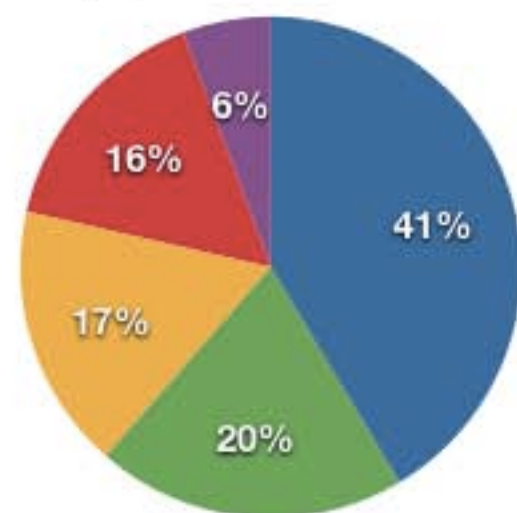
自身の殻に閉じこもらず、社会のニーズに目を向けてみる。

今のまま、努力すればよいと思います。

新技術の開発と、新しいparadimeの提供

優秀な人材を教育し、世に輩出すること。

Q.3-8, 科学者が期待される役割は？



- 社会の役に立つ発見、発明をする
- 人類共通の財産となるような真理を明らかにする
- ノーベル賞の受賞など世界に日本の名を轟かす
- 最先端の科学の担い手として科学教育に寄与する
- その他

その他コメント

研究成果を一般の人たちに分かりやすく紹介する

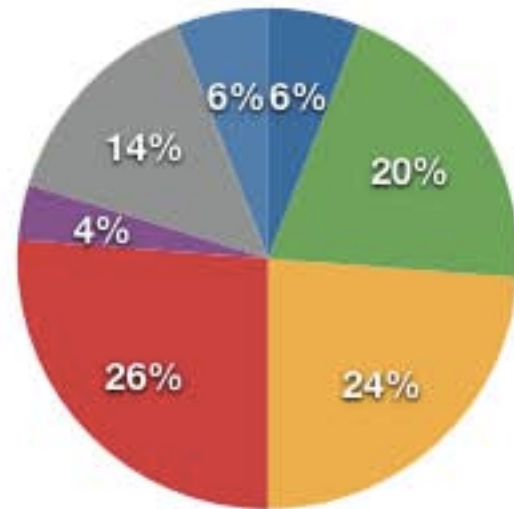
すぐにお金になる研究。

僕が期待しているのは、"楽しそうに生きていること"。

教育、啓蒙活動

科学について一般人にきちんと説明し、その意義を非科学者にも伝える

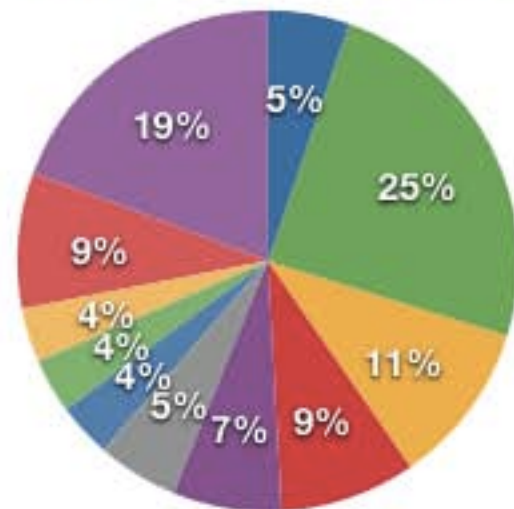
Q.4 研究に必要な能力は？



- 実験技術
- 独創性
- 計画性
- 考察力
- 語学力
- 研究費の獲得能力
- その他

Q.4 その他
信じる力、政治力、図太さ、好奇心、情報収集力

Q.5 生物学における大きな仕事



- メンデル遺伝
- 二重螺旋構造
- PCR
- 進化論
- IPS(ES)細胞
- セントラルドグマ
- GFP
- ヒトゲノム
- がん遺伝子の発見
- DNAの機能解明
- その他

その他
タバコモザイクウイルスの発見
細胞の発見
遺伝子組み換え技術の確立
オペロン説
化学浸透圧説
カルビン回路
エビジェネティクス
システムズバイオロジー
次世代シーケンサー
トランスポゾンの発見
RNAi

Q.6 好きな科学者は？

山中伸弥
安藤百穂
キャリー・マリス
ライナス・ポーリング
大隅典子
花房秀三郎
seymour benzer
Norbert Wiener (応用数学者)
アインシュタイン
カント